



軽防協ニュース速報（号外）

2016年2月12日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

馬鼻肺炎ウイルスによる流産等の発生状況について

馬鼻肺炎ウイルスに起因した流産は日本国内の特に生産地において非常に重要な疾患とされている。本年も日高地方において馬鼻肺炎ウイルスに起因した流産が12戸29症例（2月12日現在）発生しており、これは過去最高の流産頭数を示した2013-14年に並ぶ発生頭数となっている。特に同じ牧場で流産が連続する例が多く見られ、これも2013-14年と同様の特徴を示している。

海外においても、欧米諸国を中心に馬鼻肺炎ウイルスに起因した神経疾患および流産の発生が連続している。今年に入ってからアメリカ、フランスおよびベルギーでは神経疾患が報告されており、特にアメリカでは既にペンシルバニア州、カリフォルニア州およびイリノイ州の厩舎施設、ジョージア州のジョージア大学付属動物病院、アリゾナ州、ニューメキシコ州の競馬場で散発している。また、イギリス、アイルランドでは生後直死や流産が多数報告されている。

発生を予防するためには、感染源となる可能性が高い新規導入馬や、ウイルスを増幅する若齢の育成馬を妊娠馬と分けて飼養することが重要である。また、発生時には感染の拡大を防ぐため、可能な限り流産馬を隔離し、当該馬房およびウイルスに汚染されたと考えられるすべてについて消毒を徹底する必要がある。

情報提供

1. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january1.html>
2. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january3.html>
3. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january4.html>
4. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january8.html>
5. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january9.html>
6. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-january11.html>
7. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-february2.html>
8. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-february5.html>
9. <http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report16-february6.html>
10. 北海道日高家畜保健衛生所 HP 伝染病などの情報
<http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ds/khe/top/kannaisippeihasseijyoukyou.htm>
11. 日本軽種馬協会